●春日部市民文化講座（第 24 回）

◆日　　時：2017 年 11 月 29 日(水) 10 時（ぽぽら春日部 4 階会議室）～11 時

◆テ ー マ：講演「私の茶の湯 40 年、チャリティ茶会の 20 年」

講師：香田 寛美（江戸千家渭白流茶道教授）

◆ゲスト紹介:《前掲と同じ》。現在は再任用職員で環境センター勤務。江戸千家渭白流（いはくりゅう）茶道教授。

■お茶を始めたきっかけ

髙橋先生からいただいたテーマは「春日部市の文化」ですが、私にはちょっと荷が重いので「私の茶道人生 40 年、丘の上チャリティ茶会 20 年！」という内容でお話を進めさせていただきます。 今年で足かけ 40 年になった茶道とのお付き合いですが、最初に、私がお抹茶に接したのは中学校 3 年の文化祭でした。同級生の女子生徒から頼まれて飲んだ味は覚えていませんが、その時に「お茶は身体に良くて美味しいものなのよ。そして、お茶って楽しいものなのよ！」と言われた言葉が今でも忘れられません。次のお抹茶との出会いは大学時代のことです。東京理科大学工学部建築学科（飯田橋）で岸田香太郎君との運命の出会いがありました。彼とは同じクラス、同じグループで、同じ自主ゼミに入って建築史を学び、彼からは麻雀やお酒の飲み方も教えてもらい、彼の家で良く泊めてもらいました。そんな岸田君が江戸千家渭白流八代家元の息子であり、岸田家は「麗子像」で有名な画家の岸田劉生の家系で、劉生の妻・蓁（しげる）さんから江戸千家渭白流を代々継承されており、当代 9 代が岸田香太郎君なのです。大学時代はお抹茶をときどきいただくだけでしたが、社会人となって昭和 53 年 6 月に入門し早いもので足かけ 40 年になりました。

■江戸千家渭白流とは

江戸千家とは、江戸時代中期に江戸に出て来た川上不白が広めた表千家の茶道です。当時の江戸では、武家流の茶道が隆盛しており、表千家七代・如心斎宗左宗匠の命により、江戸で千家の茶道を広めたと言われております。その川上不白の弟子の一人に川上渭白がおり、私共の流儀の祖となります。5 代までが川上家の血縁でしたが、その後、岸田家に引き継がれて今日に至っております。

■皆伝、「三楽庵」を許されて

当流では、初伝、中伝、奥伝、師範令、そして皆伝を授かります。私は入門して 3 年目の昭和 56 年 5 月に「初伝」をいただき、「茶通箱」と「唐物」の点前とともに、茶号「静寛」を授かりました。そして、平成 6 年 6 月に「皆伝」をいただくとともに「三楽庵」の庵主となることを許されました。私にとっての「三楽」は、「学ぶ楽しみ、友と語らう楽しみ、そして、茶を喫す楽しみ（茶の後のお酒も含めて）」と言い続けてきましたが、最近は**「一家の者が無事であること、天にも人にも恥じることがないこと、そして茶人の心で地域のため人のために働けること」**が私の「三楽」に変わりつつあります。平成 4 年 4 月からは知人の公民館長から依頼で茶道サークルでの講師も務めています。このように、私の茶道人生 40 年の前半は、「守破離」の「守」で基礎を固め、公民館で弟子たちとの稽古が始まり基盤ができて茶の湯が面白くなってきた時代だったと思います。

■私の茶道人生 40 年の後半

公民館で稽古を続けていた皆さんに「ハレの場」を経験してもらおうと平成 7 年 10 月から社中の「茶会ごっこ」にお客様をお招きして「三楽茶会」という名で茶会を始めました。平成 14 年の第 5 回以降はお客様も 80 名を超えて、お濃茶とお薄、さらに粗飯もお出しするような形で平成 24 年の第 12 回まで続けてまいりました。

■丘の上チャリティ茶会

平成 10 年 1 月の「三が日茶会」の時に髙橋先生から**「暗いニュースが多い中で、私たちの奉仕で、多くの皆さんに茶道文化や人が出会いを通じて心を豊かにしていただこうよ」**と茶会の提案をいただきました。そして、髙橋先生がスピーディに動かれた結果、春日部市茶道連盟の重鎮・関根富仙先生、裏千家のけやき会の皆さんが結集されて第1回茶会を開催することになりました。11 月 13(金)、14 日(土)の2日間で開催されて 600 名のお客様にお越しいただくこともでき、新聞にも大々的に取り上げられて**「第 1 回 丘の上チャリティ茶会」**がスタートしました。

・第1回　丘の上チャリティ茶会

県　東

チャペルでチャリティー　おチャ会

埼玉新聞に取り上げられました

〔上1998年10月8日〕
〔下1998年11月20日〕

■私の茶道人生 40 年

私の茶道人生 40 年を振り返ってみますと、**「趣味は厳しく、仕事は楽しく！」**の実践の場でもありました。

髙橋先生からいただいたテーマから改めて私の 40 年の茶道人生を振り返ることができました。感謝！